

児童生徒の「主体的な学び」を促す授業実践

1 基本情報

- ◇各教科等 自立活動
- ◇学部・学年 小学部 第6学年
- ◇単元名 体の動き
- ◇単元の目標 他動運動から自動運動へと動きを覚えていくことができる。
- ◇付けたい力 指示を聞いて内容を理解し、行動することができる。
- ◇本時の目標 意欲的に体を動かす。
- ◇生徒の実態

知的障害と体幹機能障害を併せ有する児童と知的障害と心臓疾患を併せ有する児童の2名で編制されている。運動に関しては、体のバランスをとることが難しく、転倒したりうまく体を使えなかったりする児童、心疾患機能障害があり息が上がる程度の運動を禁止されている児童と、実態はそれぞれである。

2 期待する児童生徒の姿

- ・ 指示を聞いて内容を理解し、行動することができる。
- ・ 自分で考えて動くことができる。

3 指導者が捉えた児童生徒の「主体的な学び」

- ・ 児童がスケジュール表を見ながら、司会をし、運動を進めていくことで、指示を待つて行動するのではなく、主体的に活動することができた。
- ・ イラスト表を掲示し、それぞれの順番の動きが示されているので主体的に動くことができた。
- ・ 児童が次の活動の見通しを持って、動くことができた。(棒体操では視覚支援教材として運動内容と順番を示されたイラストや表を示す取り組みを行えば、自分で確認して、自分から動けることが多くなり、自信を持って行動することができた。)
- ・ 将来、どこで過ごすことになっても、やるべきことが自分で分かり、主体的に動くことができる力を今後も付けていきたい。